

新春を迎えて (年頭のごあいさつ)

あけましておめでとうございます。

本年も、当財団法人の事業等につきまして、格別のご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年6月に内閣府に置かれた「新しい時代の公益法人制度の在り方に関する有識者会議」が公表した最終報告によれば、営利を目的としない民間非営利部門が、「公」として果たす役割が今後ますます重要になるとされております。その役割として「多様で変化の激しい社会のニーズに柔軟かつきめ細やかに対応」し、「新たな事業展開にチャレンジして新たな価値を創造」し、成果として「社会的インパクトを創出」していくことが期待されています。

当財団法人は、平成24年に公益財団法人に移行しましたが、昭和34年の財団法人設立から約64年が経過しました。その間、学校給食用物資の「安定供給」「食材の安心・安全確保」にかかる事業をはじめ、「学校給食の普及充実」や「食育支援の推進」に関する事業などにも取り組んでまいりました。これからも、「公」としての多様な価値観に基づき、時代の流れに即した本法人のあり方を追求し、諸事業を推進してまいります。

今後とも、学校給食の充実・発展に向けて、学校給食に関わる皆様方と緊密に連携協力を図りながら、公益財団法人としての責務をしっかりと果たしていきたく思いますので、引き続き、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

今年度は、3年間余りに及んだコロナ禍における様々な制限がなくなり、新型コロナウイルス感染症法上の位置づけが「5類」に引き下げられたこともあって、「黙食は必要なし」となりました。ようやく、給食の時間にも子どもたちの話し声や笑顔が少しずつ戻ってきました。学校給食には、食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身に付けさせるという目標があります。コロナ禍が過ぎ去ろうとしている今こそ、ピンチをチャンスに変えて、給食の時間を今の時代に合わせて、より一層充実させていきたいものです。

当法人の経営理念は、『未来を担う大切な子どもたちに安全・安心で安価なおいしい給食用物資の提供を安定して行い、そして心と体の健康を守り、信頼される給食会を目指すこと』です。

改めて、給食・食育に関わる皆様方におかれましては、この機会に、給食の時間が子どもにとって「楽しみな待ち遠しい時間」となるようお願いいたしまして、年頭のごあいさついたします。